

2019年度
修士学位請求論文 論文要旨

〔論文題名〕

中国大陸における声優事務所の
2010年代の急増についての研究

| | |
|------------------|------------|
| 国際日本学研究科 国際日本学専攻 | |
| ポップカルチャー 研究領域 | |
| 学生番号 | 4911181003 |
| 氏名 | 于 小茜 |
| 指導教員 | 森川 嘉一郎 |

アニメのキャラクターに声をあてるなど、映像作品などに主に声で出演する「声優」は、中国でも日本でも専門的職業として成立し、それぞれの国の一般の人々にもその存在が認知されるようになってきている。中国では、声優という職業は1920、30年代からすでに存在していたとされている¹。もっとも、洋画の吹き替えの黄金時代と評される80年代にいたっても知名度を得る人物はわずかに現れるのみで、声優は裏方的な存在にとどまっていた。

ところが2000年代に入ると、日本のポップカルチャーの流入の増大と、中国政府による国内のアニメ産業へのサポートの強化にともない、日本の声優とともに、中国の声優を含む「声優」という職業そのものが注目され始めた。そして2010年代には、香港や台湾とは異なる形で中国大陸²の声優産業が発展を遂げた。中国人声優がタレントとして注目を集めるようになり、テレビドラマやアニメのアフレコの様子がしばしばマスコミで取り上げられ、視聴者の関心を集める状況になっていた。声優個人への注目の高まりと併行し、声優事務所が続々と設立されるという、それまでにない動きが現れた。これらの事務所のほとんどは、声優の養成コースを開設しており、そこで新人の育成を担っている。中国大陸における声優の養成システムが未整備な状態にある中、これらのコースは、中国大陸の声優志望者に技術習得の機会や業界への入り口を提供してきたと考えられる。

事務所の設立ラッシュが起こる前の中国大陸における声優の就業形態については、断片的な形ではあるものの、いくつかの関連書籍や記事の中で触れられている。中華人民共和国が建国された1949年から、声優は主に国家運営の各「訳制廠」（中国において洋画の吹き替え制作を行う機関）の職員であった³。1978年の改革開放以降、中国におけるテレビの普及に従い、テレビ局と話劇団も声優を保有するようになった。一方、改革開放後、中国の経済体制は計画経済から市場経済へと徐々に移行した。それに適応するため、1993年から訳制廠は市場化の試みを開始し、雇用システムを社員制から有期雇用制に変更した⁴。そして市場化改革の実施にしたがって行われた人員の削減により、声優人材の訳制廠から社会への流出が引き起こされた。2010年頃にいたり、中国大陸においては、声優はフリーランスやアルバイトの形で仕事に関わることが一般的になった。

既存の文献などには、2010年以降の声優の発展史に関する記述を一部見出すことができるものの、声優事務所の急増という局面をとらえたものは現れていない。そこで、本研究では、2010年代に現れた中国大陸における声優事務所の設立ラッシュに注目し、事務所のリストの作成と各事務所の設立と関わる情報の収集を中心とした文献調査と、関係者に対する個別のインタビュー調査を通し、その経緯の解明を目指すものである。

¹ 宋磊（2011）「日本动画配音产业何以“优”」『中国文化报』2011年6月22日008版

² 本研究では、「中国大陸」と表記する場合には、台湾地区と特別行政区である香港・マカオを含めておらず、これは中華人民共和国が支配している領域を指す。なお、「中国」と表記する場合は、中国大陸とそれに付随する島嶼を指す。ただし、先行研究に関しては、「中国」と「中国大陸」の使い分けが明確ではない箇所があるため、引用等では原文のまま表記する。

³ 楊和平、麻争旗（2010）『当代中国译制』（デジタル版）中国传媒大学出版社，pp.230-231、271-272

⁴ 楊和平、麻争旗（2010）同前，p.286

中国大陸の声優事務所を総覧できるリストは、労働組合のような業界団体が存在してオフィシャルなものを作成されていたりはしないものの、複数のウェブサイトが独自に作成して掲載しており、本研究ではこれらを合成した上で、適宜補うことにより網羅性を追求した。そして2018年7月から2019年9月まで、筆者は、公表されている問い合わせ用のメールアドレス、知人の仲介、SNSのアカウントなどを通じ、研究対象となる17社の声優事務所に調査協力を依頼し、取材許可の回答を得られた12社にインタビュー調査を行った。なお、光合積木と729声工廠の2社に関しては、その創業者がWeiboに投稿した内容とウェブサイトの関連記事を、取材調査に代わる証言として参照する。

インタビューで得られた回答を大別すると、2010年代に中国大陸で設立され声優事務所の設立理由や経緯は、声優および産業の発展の見通しに基づくもの（5社）、事務所という公的な名義の必要性（4社）、安定性の追求（2社）、新人育成（2社）、地域間の組織連携（1社）の5つに分類できる。

結果としては、声優自身および業界を取り巻く環境の発展の見通しと、税制の変化に従い仕事における公的な名義の必要性が、2013年以降に比較的重要な要素となったことが判明した。2010年から2012年までに設立された声優事務所は、設立理由が主に経理的・実務的な目的に基づくものであった一方、2013年からは、個人あるいは産業の発展を求めるなど、理念的な目的意識が目立つようになっている。近年の声優に対する注目が拡大する状況にいたる過程で、2013年に声優への注目を増幅させることとなったのは、『宮廷の諍い女（甄嬪伝）』をはじめとするいくつかの人気作品のヒロインの声に、声優の季冠霖が出演したことである。同年を境とする、声優事務所の設立目的における実務から文化的理念への意識の変化は、そのような状況から刺激を受けていたのではないかと考えることができる。そして、2014年頃から、事務所という公的な名義に対する必要性が高まったとみられる。その前年の2013年より、中国大陸の税制は営業税から増値税へと移行し、徐々に完備されてきた。それに従い、制作・著作権側との契約や領収書に使用する公的な名義の必要性が生じたことが、インタビューの回答からうかがえる。

また、各声優事務所が携わっている主な分野を二次元作品（アニメ、ゲームなど）と三次元作品（国産テレビドラマなどの実写作品）とに大別し、調査結果をみると、二次元作品を中心とする事務所の設立は、概して実務的な目的に傾いていると考えられる。それに対し、三次元作品を中心とする事務所は、理念と実務の双方にまたがっている。そして、仕事ジャンルと事務所の地域分布を合わせてみると、三次元作品を中心とする事務所は北京、二次元作品を中心とする事務所は上海に集中していることを見て取ることができる。これはインタビュー調査から得られた仕事ジャンルの地域分布の情報に対応しており、国産テレビドラマの制作が北京、アニメ・ゲームなどの制作が上海に寄り集まっているという、中国大陸のコンテンツ産業の分布状況を実証している。

他には、近年における中国国産アニメの発展は、多数の声優事務所が設立された直接的
原因ではなかったものの、アニメ産業の発展にともなう作品量の増加や声優の知名度の向
上を後押しした効果が、事務所の展開に一定程度の促進作用をおよぼしていることが確認
できた。

その一方で、インタビューがかなわなかった事務所がある。また、声優の就業形態の歴
史において、吹き替え制作以外の状況に関しては、明らかにされていない点も残されてい
る。今後は、より明確な声優事務所像を掴むために、さらにアニメやテレビドラマの制作
会社などのコンテンツ産業における上位部門からの証言、業界を取り巻く社会環境の変化
をも合わせ、より緻密に検討する必要があると考えられる。